

平成30年8月3日

ALIC/USMEF 定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として両国において、原則として毎年度交互に開催しており、今回で通算32回目となります。

記

1 日時：平成30年7月23日（月）午前9時00分～12時00分

2 場所：米国・デンバー

3 参加者

ALIC

佐藤（理事長）、新川（総括調整役）ほか

USMEF

ダン・ホルストロム（会長）、フィリップ・セング（名誉CEO）ほか

4 会議内容

ホルストロム会長と佐藤理事長の挨拶の後、双方から米国及び日本の食肉需給について説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの米国の食肉需給についての説明概要>

【牛肉関連】

- ・2018年の牛肉生産量は、フィードロットの飼養頭数が増加していること等により、前年比3.7%増加し、少なくとも2020年まで増加傾向で推移すると見込まれる。また、増産分の32%が輸出に仕向けられ、アジア市場向けが堅調に推移すると見込まれる。

- ・消費者に選択肢を提供するために、植物由来のタンパク質（フェイクミート）を取り扱うハンバーガー店が増えている。食肉業界としては、表示をどう規制していくべきかを考えていかなければならない。

【豚肉関連】

- ・2018年の豚肉生産量は、前年比4.5%増加し、過去最高となると見込まれる。また、増産分の20%が輸出に仕向けられると見込まれる。
- ・2018年の米国の一人当たり豚肉消費量は、前年比1.7%増加し、過去最高を記録すると見込まれる。
- ・中国及びメキシコによる報復関税等により、7月時点の豚枝肉の先物価格が2月時点と比べて100ポンド当たり約20米ドル下落した。これにより、23億米ドル相当が損なわれたことになる。
- ・1～5月の中国・香港の豚肉輸入量は、国内生産量の増加などにより、前年比6%減少した。国別に見ると、米国が同20%減少したほか、EUやカナダも減少した。一方、ロシアなどへの輸出が減少したブラジルからの輸入は増加した。

なお、ALICからは、日本の牛肉および豚肉の直近の需給動向、和牛の輸出促進の取り組み等について説明を行った。

お問い合わせ先

調査情報部 横打、渡辺

電話 03-3583-9804、4397